退任あいさつ

▶前校長　友枝　文也

わずか1年という短い期間でしたが、同窓会の皆様には温かいご支援とご協力を賜り衷心より御礼申し上げます。筑紫丘高校での1年間はこれこそが求められる教育の姿ではないかと実感した1年でありました。

その一つは、先生方が生徒の個性や能力を最大限引き出そうと、授業の在り方や試験問題の内容を研究し協議を重ねながら組織的に教育活動を展開している姿を見ることができた事です。

二つ目は、生徒諸君が素直で明るく自己表現力が豊かであり、高い志を持って勉学や部活動に取り組んでいる姿を見ることができた事です。

そして三つ目は、PTAの方々とともに同窓会の皆様が、教育活動の充実や生徒の進路実現のためには、どのような支援も惜しまないという姿に触れることができた事です。

いずれ本校が文武両道という理想を実現し、我が国における高等学校教育のお手本となる日が、必ず訪れることを確信しています。

▶総括教頭　小林　至

今は亡き父の高校教師の姿と高校時代の恩師瀬口俊光先生（本校在職・昭和47～52年）の導きにより保健体育教師として歩み始めて以来、本年3月末で教職38年を無事務めることができ、感謝しております。

筑高には昭和57年から平成11年までの17年間、保健体育教師として、また最後の年に総括教頭して赴任して多くのことを学ぶことができました。

その中の大きな財産は、筑高体操との出会いです。赴任当初は独特の体操に戸惑いながらも、平島善光先生の指導を仰ぎながら生徒とともに筑高体操に汗を流しました。全男子生徒の前で号令をかけることができるには5年かかると言われ、近藤誠一先生の後を引き継ぎ、筑高大運動会で平成4年から10年まで全身全霊を込めて号令をかける栄誉に浴しました。

筑高体操は校歌に流れる日本精神の身体的発露であり、大和魂そのものであります。生徒は型の継承だけに終わらず、筑高魂を継承してほしいと切望しております。筑高が益々、飛躍発展することを祈念いたします。

▶川崎　一由（高29）

記憶を正確に辿ると34年前の高校卒業時、母校で教鞭をとることなど全くと言っていいほど想像していなかった。大学は工学部。5年前に何かの縁で母校へ。2回ほど担任として卒業生を出せたこと、62回生の息子と3年間同じ高校の空間を共有できたことが強い印象として残る。

63回生では3年8組の担任として母校における最後の年を過ごした。自分が高校時代に3年8組の生徒として卒業したことを考え合わせると、何か因縁めいたものを感じずにはいられない。

同窓会では微力ながら会報委員の一人として参加させていただいた。皆様のご健勝と母校の発展をお祈りします。

▶三好　敬子（高30）

平成8年から15年間、母校に勤務させていただきました。またこの間に70周年と80周年の行事に参加させていただき、とても感謝しています。

声高らかに校歌を歌い、卒業してからも多くのOBが母校に集う学校というのは、とても素晴らしいものです。現役時代に楽しいことや苦しいこと全てに全力で駆け抜けたからこそ、心が母校に向くのだと思います。

筑紫丘同窓会の益々のご発展をお祈りいたします。ありがとうございました。

▶江濱　義博（高33）

お世話になりました。

平成9年4月から23年3月まで、あっという間の14年間でした。担任を12年間させていただき、4回卒業生を送り出し、70周年と80周年記念式典、昨年の同窓会総会、野球部監督と様々な経験ができました。

小生にとっては、かけがえのない14年間になりました。心より感謝申し上げます。

「桧原桜賞」4人が受賞

桧原桜賞

▽福岡市長賞
さぁ親父　手荷物僕にあずけてよ
今までの分これからの分
（1年、菅村恵史）

第2回桧原桜賞（桧原桜賞実行委員会主催）の表彰が3月にあり、高校生の部で本校生徒の作品4点が「福岡市長賞」などに入賞（入賞は5点）。ほかに秀作に8点、入選に50点という好成績を残しました。

「桧原桜賞」は道路拡張で伐採されそうになった桜の木を住民と行政が「短歌」のキャッチボールで守ったエピソードを後世に語り継ぎ、全国に発信することを目的に昨年から募集。今年は高校生の部には1496句の応募がありました。

本校では国語科と連携して1年生（現在の2年生）が取り組みました。

「市長賞」以外の受賞者は次の通り。

▽福岡市議会議長賞
1年　堀江　真広

▽福岡市南区長賞
1年　萩尾　渡

▽桧原桜賞実行委員会長賞
1年　吉原由季美

「さくら」「心と心のふれあい」「いたわり・思いやり」「自然保護」などをテーマに

在校生の就学支援も協力を

父母教師会会長　中山　利明（高26）

このたび、父母教師会の会長に就任しました。26回生の同級生・村上前会長から受け取ったバトンを、次の世代に繋ぐべく、精一杯頑張ります。

さて、昨年の口蹄疫騒動以来、猛暑や火山の噴火、そして大震災に津波と今、日本列島を重い空気が包んでいます。

しかし、救援の輪が広がり多くの募金が集まる現実にほっとするのは、私だけではないと思います。

また地震が起こる前、よく報道されていたのは「タイガーマスク」の名を借りた善意の贈り物でした。

実は、この春の卒業生に筑高協会の解散に伴う山林処分金の一部を、就学支援に使わせていただきました。PTA一同、大変感謝しております。

強調したいのは、肝臓病は輸血や予防接種、母子感染など医療行為によって感染した『医原病』ということです。とくに予防接種によるB型肝炎は、伝染病から国民を守るために行われた結果で、国家政策の犠牲者なのです。肝炎対策基本法が昨年1月に施行されましたが、実際の支援策はこれからです。高額医療費に苦しんでいる肝臓癌や重症肝硬変患者への治療費助成を是非、実施して欲しいと願っています。

ウイルス検診を
受けましょう！

肝臓は〝沈黙の臓器〟といわれ、病気に気づいた時は手遅れということが少なくありません。国と自治体は無料で肝炎ウイルス検診を行っています。近くの保健所で検診を受けられますようお勧めします。問い合わせは大賀＝電話092（586）3425へ。

同時に、この紙面をお借りして御礼申し上げます。

具体的には、同窓会長を始めとする選考委員会で審査した生徒11人に、受験の費用として一人当たり10万円が支給されました。この中から7人の生徒が希望大学に進学できました。1面に記載のとおり、母校ここ数年の進学状況は目を見張るものがあります。しかしながら生徒たちの学業を支える家庭は決して楽ではありません。昨今の社会情勢は年々悪化の一途、が現実です。

今後も後輩たちは高い学力と志で、次の舞台へ進みます。そんな彼らに、せめて受験の機会だけでも与えられるよう、就学支援制度が続く事とその財源となる同窓会の皆様からの寄付金が集まるよう、取り組んでいただければと思います。どうか、皆さま方のお力をお貸しください。よろしくお願いいたします。

九州肝臓友の会で活動30年

大賀　和男さん（高17）

大賀和男さん

私は1965年卒生。40年前、B型肝炎を発症し、現在は治癒状態にありますが、「九州肝臓友の会」（会員330人）の会長として患者の相談に応じたり、医療講演会を開いたりしております。

◇　◇

「肝臓病」は肝炎ウイルスによって発症します。「アルコール性肝炎」は極々一部です。ウイルスはA～E型の5種類があり、日本人に多く治療が難しいのは「B型肝炎」と「C型肝炎」です。

「B型」「C型」の患者（保菌者）は全国で約350万人。結核の平成21年度の登録者数約6万人（厚労省調べ）と比べても肝炎患者がいかに多く、深刻な問題であることがご理解いただけるかと思います。

B型肝炎は抗ウイルス薬、C型肝炎はウイルスを排除するインターフェロンなど、新薬が開発され「治る病気」になりつつありますが、肝臓癌と肝硬変で毎年5万人以上が亡くなっています。

多くの患者たちが20年、30年という長期闘病生活を強いられ慢性肝炎ー肝硬変ー肝臓癌の経過をたどり、亡くなっています。「患者同士、お互い励まし合っていこう」ーと1980年、私が初代会長として福岡市で患者の会を発足させました。

毎日新聞社に入社した1971年秋に発症した私は、入退院を繰り返し鍼灸、温冷灸、高額な民間薬、極寒の山中での水行と、あらゆる治療に手を出しました。7年後に運良く治癒状態になった私は、歴代会長6人のうち4人が亡くなる中で、6年前から3度目の会長を務めています。

肝臓友の会は毎年、福岡市と北九州市で専門医による医療公演・相談会を開き、年数回、会報を発行して最新の医療情報を提供してきました。私の自宅で電話による相談も受けています。

「癌治療を繰り返し、夫の肝臓を移植しようと九大病院で受診したが、無理とわかった。どうしていいか……」（筑紫野市、62歳女性）

「15回、癌治療を受けました。また再発するでしょうが、絶対に負けない気持ちで癌と立ち向かっていきます」（福岡市、72歳男性）

◇　◇

大山さん（高27）住吉神社でライブ

平成23年1月30日（日）、博多区の住吉神社能楽殿で「御遷宮記念晴好NEWYEARLIVE大山日出男凱旋ライブ　林住　時の過ぎゆくままに」が開かれた。本校27回の大山日出男さんのカルテットの凱旋ライブである。

日本の伝統芸能である能の舞台でライブということで「型」を重んじる能の流儀に従って、カルテットの方々は白足袋を履き、大山さんは入場の際から能役者のシテのように重々しく入場して来られました。当日の福岡は大寒波が到来し、雪の舞い散るこの冬一番の寒い日で、暖房のない能楽堂は冷え切っていましたが、能楽堂の心地よい残響の中でサックスの音色が冴えわたり、時に甘く、時に切ないジャズの世界に、詰めかけた聴衆は寒さも忘れて熱く酔いしれました。

OBの大山日出男さんも出演した御遷宮記念ライブ

また、大山さんが本校吹奏楽部のOBであることから、このライブの実行委員会のご厚意で本校吹奏楽部員は全員招待していただきました。

参加した部員も口々に「迫力やオーラがすごかった」「能楽堂に響くサックスやピアノの音がとても素晴らしかった」「一流の方々の演奏をこんなに近くで聴くことができて光栄だ」と感激していました。

（高35　大石純子＝教諭）

統一地方選　当選を祝う

23年度統一地方選で次の方々が当選されました。

福岡県議会議員　中牟田伸二（高28）・堤かなめ（高31）

福岡市議会議員　稲員大三郎（高15）・光安力（高19）・三原修（高27）・伊藤嘉人（高31）・川上晋平（高42）・田中慎介（高49）

筑紫野市議会議員　高橋征司（高15）

春日市議会議員　村上正美（高16）

大野城市議会議員　浅田大輝（高56）

（事務局で判明した方を記載）